



JAを核とした広域活動組織の設立

農地・水・環境保全組織西郷地区砂丘畑保全組合（山形県鶴岡市）

- 本地区は、日本海沿いに沿って伸びる庄内砂丘の南端に位置し、地区の1/3はかんがい施設が整備されており、鶴岡市のブランド品種である鶴姫メロンやミニトマト等の栽培が営まれている。
- 戦後自主開墾された畑地帯で、関係集落数も多い地区であり、取組を開始するに当たり、本地区の農家とのつながりが強く、かんがい施設の修繕工事等の事務を担ってきたJA支所内に事務局を置くこととした。
- ポンプの部品交換やパイプラインの補修、防砂林の管理や農道補修など、安定的な営農環境の保全のための活動に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 303ha（畑303ha）
- ・資源量 開水路3.5km、パイプライン111.4km、農道95.8km
- ・主な構成員
連絡協議会、自治会、JA、農用地利用調整委員会
- ・交付金 約15百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

JAを核とした 広域組織の設立

○関係集落が16集落と多いことから、取組を開始するに当たり、本地区のJAは、

- ①地区の出荷するメロンの大部分を担うなど、関係農家とのつながりが強い
- ②水利施設修繕工事の事務作業を代行している

ことなどから、JA鶴岡西郷支所内に事務局を設置し、活動の調整や事務作業を行う体制を整え、広域組織を設立した。

○安定的な営農環境を保全するため、農道の補修等の従来からの管理活動に加え、これまで十分に対応できなかった水利施設の補修、防砂林の管理などの活動を展開している。



活動内容

○揚水機場等の水利施設の補修

老朽化により、水利施設の補修に苦慮していたが、揚水機場の部品交換や、農家の直営施工によるパイプラインの補修等を計画的に実施。

○防砂林の保全活動

本来のクロマツの防砂機能の保全を図るとともに、農地への侵入やミツバチを利用したメロンの受粉への影響を防ぐため、外来種であるニセアカシアの伐採、除草剤の散布を定期的実施。

○直営施工により農道補修

農道の敷砂利補充や不陸整正などの補修を農家の直営施工により実施。



広域化による相互扶助体制の強化

やまごかむら

ゆざわし

山田五ヶ村地域農地・水・環境保全管理組織（秋田県湯沢市）

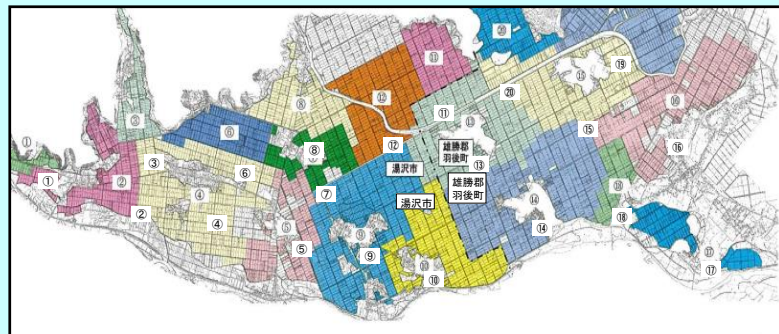
- 当地区では昭和46年から平成3年にかけて県営ほ場整備事業による整備が行われ、水系単位を基本として農業水利施設の保全管理を実施してきた。
- 規模が小さく高齢化が進行している活動組織では事務処理が困難となり、農地・水保全管理支払の第2期対策の申請を見合わせることも考えていたが、広域化することにより事務の簡素化が図られ、活動の継続が可能となった。
- また、農地・水・環境保全管理協定運営委員会（現制度における広域協定運営委員会）を設立することで地区間の扶助体制が強化され、個別地区の問題についての助言や他地区における水路の泥上げ等の手伝いを実施している。

【地区概要】

- ・取組面積 1,262ha(田 1,262ha)
- ・資源量
開水路 401.0km、農道 149.6km
- ・主な構成員
農業者、自治会、土地改良区
- ・交付金 約72百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動組織の広域化



番号	活動組織
①	田ノ沢環境をまもる会
②	緑野清流環境保全会
③	田郷清流の里地域資源保全隊
④	萬古清風地域資源保全隊
⑤	田園創造の愛宕会
⑥	清流の郷堂ヶ沢地域資源保全隊
⑦	中屋敷環境保全会
⑧	勇水会
⑨	天地友情地域資源保全隊
⑩	貴船の郷地域資源保全隊
⑪	地域保全 新緑銀山会
⑫	白山豊稔の里保全会
⑬	紅梅団の里地域資源保全隊
⑭	貝沢本郷地域資源保全隊
⑮	野の郷地域資源保全隊
⑯	鳥居四ッ堰保全会
⑰	緑の風の京塚保全会
⑱	掬ノ上地域資源保全隊
⑲	床舞の里保全会
⑳	床舞eenグループ30

広域化前（20組織）

- 規模が小さい組織では、事務処理が困難である等の理由により活動取り止めのおそれがあったことから、土地改良区のサポートを受けながら活動組織の広域化を実施。これにより活動の継続が可能となった。

広域化の効果



水路の泥上げ



景観形成

- 農地・水・保全管理協定運営委員会が地区をまとめることで扶助体制が強化され、活動が効率的に行えるようになった。
 - ・他地区の水路の泥上げを手伝う
 - ・個別地区の問題について他地区が助言
 - ・個別地区で行っていた事務処理を運営委員会が一括で行うことにより、共同活動に専念することが可能



社会的信用と透明性確保に向けた活動組織のNPO法人化

たるみない

よこてし

樽見内地域農地・水・環境保全組織（秋田県横手市）

- 本地区は、活動組織の構成員数や事業規模が大規模であることから、社会的な信用と透明性を確保した組織とするため、設立当初からNPO法人化を目指し、平成19年12月に農地・水・環境保全向上対策の組織として秋田県で初のNPO法人化。
- 農地、農業用水等の資源の適切な保安全管理に加え、豊かで明るい地域づくり活動に取り組む。

組織の概要

①法人化の目的・経緯

脱サラ後、専業農家をしているW副理事長が一念発起。相互扶助の精神である「結い」をテーマとして、
・法人格を持つことで、社会的信用が高まる
・より広範な内容で、より幅のある活動ができる
・寄付金や公的な援助が受けやすい 等を考慮し、NPO法人化。

②法人化を提案した者

W副理事長（元JA職員、現在、
農事組合法人理事）

③法人設立年月日

平成19年12月3日

④組織の構成と役割

会員
(264人団体)

○個人会員:244人

○団体会員 20団体

農家 183人
非農家 61人

民間企業、老人会、婦人会、子ども会、小学校、消防団、営農組合、土地改良区など

理事会 22人

四役会議
(理事長、副理事長、営農組合長、事務局長)

活動の企画・立案

運営委員会 55人

横手市広域協定・樽見内地域農地・水・環境保全組織

世話人会議

広域協定運営委員会

農地維持管理会議

長寿命化運営委員会

【地区概要】

- ・取組面積 261.9ha(水田261.1ha、畑0.8ha)
- ・対象施設 開水路80.4km、農道36.6km
- ・構成自治会数 11
- ・主な構成員
農業者、非農業者、営農組合、土地改良区、自治会、子供会、保育園、小学校等
- ・交付金 約14百万円(H29)

〔農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)〕

活動の概要

- ①農業用水路等の資源の適切な保安全管理を図る活動
- ②農村における生態系保全や景観形成などの農村環境の向上を図る活動
- ③環境保全型農業を推進する活動
- ④食育、農村伝統や慣習の継承に関する活動 等

多面的機能支払交付金の活動



水路の泥上げ



劣化した用水路の
補修工事



水の学び



景観形成

交付金を活用しない活動

○まちづくり、子どもの育成交流活動等
(会費・寄付金等による活動)



交流活動

NPO法人化の効果、課題

- ①法人のテーマである「結い」、相互扶助、ボランティアの心が育まれる
- ②農村の様々な課題、将来を地域で話し合える場を提供
- ③多くの市民が参加できる体制づくり、地域から信頼される組織づくり
- ④情報の公開と情報の発信・ホームページ「かしま梨」



外来種の駆除による生態系の保全

都市的地域

しんわ

はちのへし

新和地区資源保全隊（青森県八戸市）

- 本地域は、八戸市北部の五戸川流域の水田地帯で、駆除が難しい特定外来生物オオハンゴンソウの群生が見られるようになり、地域の生態系への影響が危惧されていた。
- 平成20年度から始めたオオハンゴンソウの駆除活動を、本制度により継続的に実施するとともに、植栽活動や啓発・普及活動も実施。
- 継続的な駆除活動と啓発・普及活動により、地域住民の生態系保全等に対する意識が向上し、オオハンゴンソウ群落も徐々に減少している。

【地区概要】

- ・取組面積 23ha（田23ha）
- ・資源量 開水路7.1km、農道4.8km
- ・主な構成員
農業者、自治会、改良区、
小学校PTA
- ・交付金 約1百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、八戸市北部の五戸川流域に位置する市街地に隣接する水田地帯である。
- 平成14年度頃から、特定外来生物であるオオハンゴンソウの群生が見られるようになり、地域の生態系に影響することが心配された。
- オオハンゴンソウは、繁殖力が旺盛で、スコップ等で根ごと引き抜く必要があることから、駆除には大きな負担がかかった。



オオハンゴンソウ

取組内容

- 平成20年度から、市内の各地でオオハンゴンソウが見られるようになったことから、駆除活動を継続的に実施（毎年9月頃に年1回実施）。
- 駆除活動等、本組織の活動内容を地域に紹介する広報誌を発行（年1回）し、啓発・普及を行っている。



広報誌「保全隊新聞」



看板による活動紹介

取組の効果

- 継続的な啓発・普及活動により、地域住民の生態系保全に対する意識が向上。活動参加者は一定程度確保できており、近年は30名を超える地域住民が作業を実施。
- 毎年、確認されたオオハンゴンソウを全て駆除することにより、地区内のオオハンゴンソウの群落が徐々に減少。

【毎年の駆除量：30L入りゴミ袋×20～30袋】



オオハンゴンソウの駆除活動



中世平泉の荘園景観を保全する取組

中間農業地域

ほねでらむらしょうえんだんち

いちのせきし

骨寺村荘園団地多面的機能保全会（岩手県一関市）

- 本地域は、国の史跡等選ばれているものの、曲がりくねった水路等と農業者の高齢化等により維持管理の負担が増大。
- 本制度の取組を機に草刈・泥上げを一斉作業に切り替え効率化。景観に配慮した施設の補修や、ホタルが生息する水路周りの草刈りは、ホタルの生息に配慮。
- 草刈り等に企業や大学等から数多くのボランティアが参加。世界遺産を目指す取組が関心と呼び、観光客が増加。また、ホタルに配慮した取組により、ホタルが増加し、新たな観光資源となっている。

【地区概要】

- ・取組面積 106ha（田91ha、畑11ha、草地3ha）
- ・資源量
開水路23.0km、農道15.5km、ため池6箇所
- ・主な構成員
農業者、営農組合、地域づくり推進協議会等
- ・交付金 約8百万円（H29）

（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、中世平泉の荘園の景観を色濃く残す地域で、「骨寺村荘園遺跡」として国の史跡や「一関本寺の農村景観」として国の重要文化的景観に選定。
- 曲がりくねった水路や不整形な水田の広がり詩的景観を醸し出すものの、農業者の高齢化や担い手不足により維持管理の負担が増大。
- 営農条件を改善するため景観保全型農地整備を実施したが、景観に配慮し、土水路や未舗装農道は残すことになり、これらの維持管理が課題となった。



骨寺村荘園

取組内容

- 従来、3水系それぞれで実施していた草刈り・泥上げを、本制度の取組を機に年2回の一斉作業に切り替えた。
- ほ場整備区域外において農道及び水路の景観に配慮した補修等を実施。（水路は景観に配慮した木柵を使用。）
- ホタルが生息する水路周りの草刈りは、ホタルの生息に配慮するとともに、地域住民等との交流活動として「ホタルを見る会」を開催。



景観に配慮した木柵水路



ホタルを見る会

取組の効果

- 本活動の地道な作業の重要性が認識され、地域の建設業協会や水道組合、市の管理職会、岩手大学の学生等がボランティアで共同作業に継続的に協力。
- 草刈りや泥上げ等により、農業者の負担が軽減されるとともに、歴史的景観が保全。
- 世界遺産登録「平泉」の関連資産として拡張登録を目指す取組が国民的な関心と呼び、歴史的景観を楽しむ観光客が増加。
- 土水路の維持管理や生き物に配慮した草刈りによりホタルが増え、「ホタルを見る会」も地域内外からの参加者が増加。農村の自然環境について学ぶ場になるとともに、地域の新たな観光資源となっている。

（農業者以外の共同活動への参加者数
約202人（取組前（H25年））⇒約241人（取組後（H27年））

（ホタルを見る会参加者数
取組前（H25年）：約20人⇒取組後（H28年）：約50人



伝統文化の継承による都市住民との交流の推進

じとく

ひろさきし

自得地区環境保全会（青森県弘前市）

- 本地域では高齢化や担い手不足等の進行により、農業用施設の管理水準の低下が課題となっていたが、平成18年の交付金活動のモデル地区指定をきっかけに、新たな“結”が根付き、地域の農業への理解が深まった。
- 共同活動を契機に、地元大学やNPO法人との連携が始まり、地域資源を紹介するパンフレットの作成など、地域資源の活用や承継を図り、地域振興の取組を実施。
- 平成25年からは、地域資源を活用した農作業体験や地域資源の散策を行うバスツアー、地域に伝わる伝説と歴史を中心に制作された劇の上演など、様々な地域振興活動を他事業も活用して実施。
- 多面的機能支払の共同活動は、これら都市と農村の交流を活性化させる下支えとなっている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は高齢化や担い手不足等の進行により、農業用施設の管理水準の低下が課題となっていた。
- 平成18年の農地・水・農村環境保全向上活動支援事業のモデル事業の実施以降、共同活動を地域が一体となって行うことで、新たな“結”が根付き、地域の農業への理解が深まった。
- また、平成24年から弘前大学やNPO法人等と連携して地域資源の活用や承継を図り、地域の魅力を地域外へも発信し、都市との交流や地域振興にも取り組むようになった。



地域資源を紹介する「鬼沢まるごとMAP」

取組内容

- 弘前大学やNPO法人が共同活動に参加するとともに、地域資源を紹介するパンフレット「鬼沢まるごとMAP」を連携して作成。地域住民への配布のほか、市内の観光案内所等で広く配布。
- また、本活動組織が共同活動で保全している地域資源を活かし、様々な農村振興の活動を、NPO法人等と連携しながら他事業を活用して実施。
 - 歴史と伝説の里「鬼沢の旅」バスツアー（平成25年から）
保全された農地でのにんにくの作付けや収穫体験、地域資源の散策等を実施。
 - 津軽ふるさと創成劇「鬼と民次郎」上演（平成26年から）
 - 歴史物語スライド「義人 民次郎」の復刻上映（平成26年から）



バスツアーでののにんにく収穫体験

取組の効果

- パンフレットはこれまでに約1,500部配布し、現在も市内の観光案内所等で配布中。
- バスツアーには平成26年からの3年間で約130名が参加。
- 演劇には2年間で約2,000人が来場。また、スライドは地域住民のほか、バスツアーの参加者など、約500人が鑑賞。
- これまでの取組が評価され、平成26年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯を受賞。
- 今後も、地域資源を活用した都市と農村の交流を促進し、グリーン・ツーリズムを推進し、地域の活性化を図る。



津軽ふるさと創成劇「鬼と民次郎」

【地区概要】

- ・取組面積 171ha（田144ha、畑27ha）
- ・資源量 開水路57.3km、農道12.8km、ため池1箇所
- ・主な構成員
農業者、子ども会、PTA、老人クラブ、土地改良区ほか
- ・交付金 約15百万円（H29）
 - （農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））